

住民の理解と自らの行動につなげるための 情報発信についてメディア機関と共有・連携

近年の温暖化による災害の激甚化、頻発化が顕著となっている中で、国としても災害から国民のいのちと暮らしをまもるための防災減災、そして国土強靱化のための5か年加速化計画を進めています。このような対策とあわせて、地域のリスク情報などを関係機関やメディアとの情報共有を通じて、住民等への情報伝達を行い、速やかな行動に結びつけていただくため情報提供と意見交換を行いました。



第1回 地域メディア連携協議会の概要

- 日時 令和7年6月12日(木) 10:00～11:30
- 場所 金沢河川国道事務所 2階会議室 (Web会議併用)
- 参加団体 【メディア機関】
NHK金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、
金沢ケーブル、加賀ケーブル、エフエム石川、
北國新聞社、北陸中日新聞
【行政機関】
金沢地方气象台、石川県、
金沢河川国道事務所(事務局)
- 議事次第・情報提供
 - (1) 金沢地方气象台
 - ・最新の3か月予報と洪水予報文の様式変更について
 - (2) 金沢河川国道事務所
 - ・水害リスクや防災情報の見方について
 - ・手取川梯川流域タイムラインについて
 - ・昨冬の降雪対応について
 - ・大雨による道路の通行止めについて
 - (3) その他(現地視察会について)
- 意見交換

各機関からの主な意見

- ・災害時の報道には、とにかくスピードを重視したい。このため防災関係機関ともコミュニケーションをとりながら進めていければと思う。
- ・小規模河川での逃げ遅れのケースが多いと感じている。メディアも含め対策を考えていかないとなかなか逃げ遅れは解消されない。
- ・特に高齢者は災害弱者であり、デジタル弱者でもある。出前講座などを通じて、キキクルなどの有効なデジタルツールを活用してもらう工夫があってもよいのではないか。
- ・大雪時の道路CCTVのスクロール配信について、現在の10秒間隔の配信では放送で使いづらい点もあるため、通行止めの区間などに固定するなど検討して欲しい。
- ・現地視察会は治水関係だけでなく、除雪関係で課題になっている場所を見てもよいと思う。

